



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 下町豊重
カトリック福岡司教区
編集人 下町豊重
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

6月の意向
【一般】連帯
【宣教】神学生と修練者
【日本の教会】司教団のため
教皇様の意向のために祈りましょう

被災地域・被災者のための支援の輪ひろがる

熊本地震から1ヶ月以上が経過した。今もなお、約900人が避難生活を続けるなど、多くの人が困難な状況におかれている。教区内では信徒の安否、被災状況の把握をすすめている。5月9日に「カトリック福岡・熊本支援センター」が開設。被災地域、被災者のための支援活動を行う。



カトリック福岡・熊本支援センターを通しての支援活動

「熊本・大分カンパレ」長崎からおうえんしていただきます(教会学校6年)。長崎教区の植松教会の教会学校の子どもたちから十数枚の応援メッセージが届いた。このメッセージは、5月22日の熊本地区宣教司牧評議会の場で熊本で被災した小教区に渡された。

熊本地震発生から現在に至るまで、福岡教区には全国各地、全世界から応援のメッセージや支援

福岡教区内の支援体制

福岡教区では支援の体制を整えるために、4月20日に「カトリック福岡教区熊本地震被災者支援室」(実務責任者II 青木悟神父)を開設。被災状況の把握、支援金・支援物資の受付に対応。フェイスブッ

クページを開設し、支援室としての情報を提供している。また、カトリックジャパンの支援のもと、「カトリック福岡・熊本支援センター」(通称「くまセン」)(センター責任者II 森山信三神父)を5月9日に開設。菊池教会敷地内に拠点を置き、ボランティアの受け入れと派遣に対応している。【2面に関連記事】



長崎・植松教会の子ども達から届いた応援メッセージ

ボランティア募集中

「カトリック福岡・熊本支援センター」(通称:くまセン)ではボランティア募集中。ボランティアを希望される方は福岡教区のホームページにて、申込手順、募集要綱を確認の上、お申込ください。
http://fukuoka.catholic.jp/kjsien.html
各小教区にも文書が配布されていますので、ご確認ください。

熊本地震支援金

郵便振替番号: 01760-6-20729
加入者名: カトリック福岡司教区
※通信欄に、「熊本地震支援金」とご明記ください。

義援金の申請受付について

熊本県の各小教区に在籍しているカトリック信徒、あるいは熊本在住のカトリック外国人信徒で被災された方の中で、ある一定の条件に該当する方にお見舞金を支給いたします。詳細は所属教会の主任司祭にお尋ねください。

熊本地震被災者のための祈り

熊本地震被災者のための祈りを、シトー会伊万里の聖母トラスチヌ修道院がまとめてくださいました。教会での、また個人でのお祈りに、またミサ中の共同祈願のためにお使いください。10種類の祈りがあります。

トラスチヌ修道院のホームページから祈りをダウンロードすることができます。http://www.imari-trappistines.org/

熊本地震に関する情報は随時、福岡教区のホームページとFacebook「カトリック福岡教区 熊本地震被災者支援室」に掲載。
熊本地震被災者支援室 ☎080-1761-4150

熊本地区では

5月22日、地震発生後初めての熊本地区宣教司牧評議会が開催された。各小教区の被災

状況の報告、今後の教会内での対応、教会外への対応について話し合われた。各小教区では信徒の被災状況、生活状況、ニーズの調査を行っている。避難所にいる方や、親戚宅に避難している方もおり、安否確認には時間がかかっている。自宅が全壊、半壊して住めない状況にある方もいる。

健康教会、島崎教会では聖堂でミサが行えるようになつた一方、帯山教会の聖堂は当分使えない状態だ。

宮原良治司教は「いづくしみの心を持って事に当たってほしい」と語る。



菊池教会内に拠点をおく「くまセン」のスタッフとボランティア

時の話題

イエスのみ心

馬渡島教会赴任当初、島の駐在所の警察官から聞かされた言葉は、「この島はよか人たちが多かれん、仕事のやり易い所です。延長を願って叶えてもらえたので、もう二期目のお勤めです」。人と人の交わりの具体的な良い実りがどこから来たのでしょうか。カトリック司祭にとっても決して居心地が悪い所ではないらしく、赴任早々、吉報に一安心し

て生活の一步を踏み出した。「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3・16)。世とは何のことでしようか。それはこの世に生活している私たちにほかならない。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(ヨハネ1・18)。信仰の自由を求めて、この島に上陸した最初のカトリック信者有工門(1839年・天保6年)は、島の人々の好意によって生活の場と共に信仰を守り伝えることがで

きたのである。戦後、カトリック信者たちは、その信仰をより徹底させるためにカトリック学校を創設し、小さな島に公立学校と私立学校が併存。その結果、善意で始めたことに溝が生じ、神のみ心に沿わない面が自然に出てきたのである。「人の子は、失われたものを探して救うために来たのである」(ルカ19・10)。人となられた神の独り子イエスのみ心のシンボル、その心臓が私たちの生活に反応している現実、心に想いを馳せながら、心の月を過ぎたい。

司祭の家 浦俊雄 神父

司祭評議会・本部会議 教区内の課題を探る

5月17日(火)、司祭評議会が司教館で行われた。初めの祈りの後、宮原良治司教から、「熊本地震の被災者に思いを馳せながら、今の困難を乗り越えていくための祈りと支援の輪を広げよう。試練を恵みに変えていたただけるよう一致協力して取り組んで行こう」との言葉をいいただき、議事に入った。

1、熊本地震被災者支援について.. 教区支援室の森山信三神父から被災教会・修道院・幼児教育施設の現状と菊池教会内に設立されたカトリック福岡・熊本支援センター(略してくまセン)の動き、社会福祉協議会との関連、ボランティア応募の注意事項などが話された。くまセンやボランティアで働く人、義援金が必要とされている。

2、6月22日から23日に行われる教区全司祭研修会について.. プログラムが紹介され、参加が呼びかけられた。3、「信仰の伝達」(前年の年間テーマ)のアンケート結果



「なぜ、こんなことが?」「どうしてここに?」ということがある。今回の地震も予期しない時に、予期しない所に起きてしまった。人を大切にされる神様がこんなことをなさったのか、とつい思ってしまう。もし、この時期に神様がなさったとしたら、文句を言うのではなく、神様の意とされることを考えねばならない。「私が再び来る前に天体が揺り動かされる。だから、いつも警戒しなさい」と言われるイエス様の言葉を確認するためなのか。事が起こるたびに気持ちが呼び起こされる。不安と恐れの中で生活を強いられたい。しかし、「私はあなた方に平和を残し、あなた方に平和を与える」とも言われるイエス様の言葉に信頼もしている。『主の平和』『主の平安』を心にいたしながら、どんな状況でも主と共に歩んでいきたいと思う。更に、この様な時期だからこそ、「お互いに愛し合いなさい。それによって、私がある人達と共にいることが分かる」とも言われる主を思い出し、「いづくしみの御父のみ顔イエス・キリスト」を行いつつ紹介するチャンスと捉える必要がある。教皇フランシスコは、「私の心からの願いは、この大聖年の間にキリスト者が、身体的な慈善のわざと精神的な慈善のわざについてじっくりと考えてくださることです」と言い、「私達は主の言葉から逃れることはできません」と諭しておられる(大勅書「イエス・キリスト、父のいづくしみのみ顔」《15番》)。支え合い、助け合いの心で主のみ言葉を実行しよう。それによって御父を証しできるのだから。(S)

熊本地震

その時私たちは...

熊本カトリック女性の会



タンザニアからの留学生と女性の会のメンバー

熊本カトリック女性の会の女性たちは自身も被災している中、地震発生直後から支援を続けている。介護施設、避難所、女性ならではのネットワークで情報を収集し、難関を乗り越えるために素早く対応し、近くにいるからこそ分る地域や個人のニーズに応えてきた。日本カトリック女性団体連盟や福岡教区内の他地区の女性の会とも連携している。

熊本カトリック女性の会が支援した第一号は、熊本市国際交流会館に避難していたタンザニアからの留学生の家族。一歳の赤ちゃんを抱え、避難所で離乳食が手に入らないことや、移転先の心配をしていたが、新しい所が見つかり、無事に引っ越しを終えた。

同じく、国際交流会館に避難していたバングラデシュの家族も支援。こちらの家族は、4月14日に第一子を出産。女性の会のメンバーは、「引っ越しで終わりではなく、産後に大きなショックを受けて、しばらく気持ちの面でのサポートが必要だと思えます。引っ越ししました、はい、おしまい、ではなく、今後この親子が母国から遠く離れたこの地で力強く生きて行けるよう見守っていききたいです」と語る。

この他にも、避難所にいる全員の皆様のご自宅の掃除と食器棚の購入、教会の高齢一人暮らしの方の部屋の片付けの手伝い、聖心病院や教会などへのスूपの提供などの支援活動をしながら、必要な方に見舞金を支給している。

くまセンをご活用ください

カリタス福岡・熊本支援センター
森山信三神父（センター責任者）

熊本地震から1か月が経過しました。被災地では少しずつ日常を取り戻そうと多くの方々が被災者のために奉仕しています。福岡教区は、5月9日にカリタスジャパンの支援のもと、「カリタス福岡・熊本支援センター（くまセン）」を菊池教会内に設置しました。ここから震度7を2回記録した益城の隣町、西原村を活動の拠点として、ボランティアを受け付けています。場所的には、熊本市内から車で約1時間かかり、決して便利なお店ではないのですが、市内では未だ余震が続いており、また多くの教会も被災しており、市内から離れた菊池にセンターを置くことになった次第です。被災者のために何かしたい、そう考えておられる方は多いと思います。まず、センターに申し込みをして、現地に赴き、ご自分の目で被災地を見て、奉仕されることをお願いいたします。がれきや瓦の片づけ等、力仕事はまだたくさんあります。また、16日に、現地ボランティアセンターを運営する社会福祉協議会から私たちに24時間体制の西原村福祉避難所（年長者の方々とその家族のための避難所）での見守りが足りない、くまセンにお手伝いをお願いできないだろうかという援助の要請が来ました。仕事としては避難所のトイレ掃除や物資整理、お年寄りのお散歩や話し相手などです。寝ているばかりの方が目立つのでこれ以上身体機能を低下させないためにも何か工夫する必要があります。現場の責任者とコミュニケーションを取りながらお年寄りや寄り添うことのできる継続可能なボランティアが今後、必要だと感じています。現在ここには数名のボランティアが行っているのですが、現場で疲れきっているスタッフの方々は、大変助かります。と喜ばれています。女性の皆様もどうぞ、くまセンを通じて現地においでください。時の経過とともにボランティアの数も減ってくるものですが、私たちは、信徒の方の要請はもちろん、一般の被災された方々のニーズを受け取って、可能な限りお応えしていきたいと思っております。皆様のご協力をお願い申し上げます。最後に被災された方で、ボランティアに来てほしい方はご連絡なく、くまセンにご一報ください。

くまセン

カリタス福岡・熊本支援センター

5月9日に開設した「くまセン」は全国各地からボランティアを受け入れている。5月25日現在、延べ100人近くのボランティアがくまセンを通じて支援活動を行った。平日には60代、70代の方、週末には青年たちが活躍している。ボランティアに参加された方の声を紹介する。

☆いきなり、一晩で家族、家事、多くのものを失われた。被災された方ではないとかなかなか想像できないことだと思います。私たちには今日帰る家があり、当たり前前の生活がありますので、やはり何とも言えないものがあります。

☆その場に身を置いて見えること、伝わってくるものがあります。がれき分別作業のとき、ご近所の方が時々様子見にいらして下さり、地震のときのことを話してくださいました。顔をあわせることは共に歩むために大切なプロセスだと感じました。それから人の話を聞くこと、聞いてもらうことが、次



(上) がれき分別作業をするボランティア (下) 福祉避難所でお年寄りに寄り添う



被災外国人のための支援



炊き出しをしたフィリピン人グループ

熊本市国際交流会館（熊本市中央区）では、一時最大約70人の在留外国人が避難先として利用した。多言語での情報発信や、被災した外国人のための炊き出しをするなど、外国人の「駆け込み寺」として機能していた。

炊き出しは、NPO法人「コムスタカ」が呼びかけ、フィリピン人グループを始めいくつかのグループが奉仕した。

5月1日と8日には被災した外国人のための生活相談会が開催された。生活を再建するために必要な行政・法律上の相談や心の相談が行われた。心の相談ではビン・アルバ氏（佐賀教会）や加藤理人氏（島崎教会）がボランティアで相談に応じた。「子どもとどう過ごせば良いのか」などの相談があった。

心のケア

九州地方の臨床宗教師でつくる「九州臨床宗教師」が、熊本地震で被災した人たちの心のケアや支援といった活動をはじめた。多くの人が車中泊を続けるグラ...



九州地方の臨床宗教師でつくる「九州臨床宗教師」が、熊本地震で被災した人たちの心のケアや支援といった活動をはじめた。多くの人が車中泊を続けるグラ...

若い力も...

教区内の青年たちも自発的にグループを作り、被災地を訪問。ゴールデンウィーク期間中、健康教会の聖堂と信徒会館の片付け、被災した信者さんの自宅の片付けの手伝い等を行った。

4月29日には、青年有志が熊本市国際交流会館で外国人被災者のための炊き出しを行った。



安田久雄 大司教 帰天



1997年まで大阪教区の教区大司教を務めたパウロ安田久雄大司教が4月23日早朝、老衰のため兵庫県姫路市のカトリック仁豊野ウイラで亡くなった。享年94歳。

安田大司教は1921年福岡県生まれ。55年司教叙階。続けてローマに留学し、博士課程を卒業。63年、67年、英知大学（当時）副学長。70年2月に大阪教区の補佐司教に任命され、同年3月に司教叙階。78年11月に同教区の大司教に任命。79年2月に着座。95年1月の阪神淡路大震災で被災教区の大司教として尽力し、「教区新生計画」を発表して、被災からの単なる復旧ではなく、社会の隅々にまで福音を行き渡らせることのできる、21世紀に向け刷新された教会作りを呼びかけるなどした。97年5月に引退。晩年はカトリック仁豊野ウイラで過ごしていた。

安田大司教の葬儀・告別式は4月26日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行われた。

計報

小川 静香 修道女 (聖母訪問会) 1924年生まれ。41年入会。老衰のため、4月20日に帰天。享年92歳。

山口 トミ 修道女 (マリアの宣教者 フランシスコ修道会) 1922年生まれ。修道生活62年。5月9日に帰天。享年93歳。

【月例黙想会】
期日：6月11日(土)17時～12日(日)15時
指導者：染野 治雄 神父(福岡黙想の家主任)
費用：8,700円(税込・指導料含む)

◆黙想会の申込締切は開催の一週間前まで ◆詳細はお問合せください

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155 宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222 (9:30～16:30)
Fax 0940-32-3385 Eメール f-mokuso@fmokusou.com
インターネットで検索 **福岡黙想の家** 検索

【奉獻者のための黙想会】
期日：7月8日(金)17時半～17日(日)9時
指導者：染野 治雄 神父(御受難修道会)
費用：80,000円(宿泊・食事・指導料含む)

PRAYER GROVE MUNAKATA

ミサ用ワイン
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合わせは 有限会社 大楠酒店 ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5



司教の講話に聞き入るシスターたち

福岡教区修道女連盟総会 「神に派遣された者として」

4月29日、カテドラル大名町教会において福岡教区修道女連盟総会が行われ、福岡教区に所属するシスター約60人が集まった。尚、相次ぐ余震の影響により、熊本地方のシスター方が欠席された。総会のはじめに参加者全員で心を合わせ、被災地のための祈りが捧げられた。
宮原良治司教による講話(テーマ「いつくしみの特別

発足式ミサには、佐賀地区の司祭・修道者・信徒約100人が参加。ミサの説教で司教は「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなさい」という聖書の言葉を引用し、新たに発足した宣教師評議会という組織を新しい革袋に例え、「神の愛にならって新しい情熱をもって、新しい表現



祝賀会で青年と語る宮原司教

佐賀地区宣教師評議会・女性の会が発足 新しいぶどう酒は 新しい革袋に



発足式のミサで共に祭壇を囲む、司祭、修道者、信徒

5月8日(日)、佐賀地区宣教師評議会および女性の会の発足式ミサが、宮原良治司教の主司式により佐賀教会で執り行われた。佐賀地区では昨年、信徒使徒職協議会において宣教師評議会への移行が決定し、規約を準備して本年2月に宮原司教の認可を受けて4月1日から発効していた。

方法や手段を追及し、時代の変化に柔軟に対応していくように促した。
ミサの終わりに、宣教師評議会会長と女性の会指導司祭への任命書授与が行われた。司教は挨拶の中で発足に至る司祭や信徒の努力に謝意を表し、組織として、一致団結とすべての信徒使徒職の使命を果たすように求めた。これに心えて佐賀地区長の下町豊重神父(佐賀教会)は、「宣教師評議会は司教様の認可によって4月1日から歩みだしたが、今日のこのミサ式典によってさらに活気づけられ、力強い歩みが続いていくと確信しました。お言葉通り一致団結して佐賀地区として教区の発展のために尽力していきましょう」と力強く

福岡地区カトリック女性の会総会 愛のうちに共に育つ

4月23日(土)、大名町教会に於いて第33回福岡地区カトリック女性の会総会が開催された。参加者延べ151人。総会の中で、各施設(栄光病院、篠栗荘、富の里)で奉仕している代表から、活動の報告とボランティア奉仕に対する熱い気持ちの話が話された。午後からは長崎南山中、高等学校校長西経一神父による講演。テーマは「愛のうちに共に育つ」。西神父は日常の生徒達との様々なエピソードを交えながら、「交換」「比較」で全てが成り立っている世のしくみの中で、それらとは無縁である母の「無償の愛」の大切さを語った。何もできない、何も交換出来る物を持たない生まれて間もない赤ちゃんに、無条件に注ぐ母の溢れる愛は福音(神様の愛)そのものであると。会場から「神

謝と喜びをもって、組織としての規約に沿って司教様に安心していただけるような活動を推進していきます」と挨拶した。
ミサ後は佐賀カトリック幼稚園講堂にて祝賀会が開催され、司教を囲んで新しい組織の発足の喜びを分かち合った。
(報告 伊万里教会・吉浦健司)

聖年(大勅書から)では、冒頭に震災報告及び今後の活動予定に関する話があった。その上で、司教は参加者に「私たちは、いつくしみの特別聖年をどう生きるべきか課題を与えられているのではないかと問いかけた。よりふさわしく生きるための手掛かりとして、特別聖年を制定された教皇の意向を様々な角度から探ると共に、「信仰」と「生活」についても振り返った。司教は自身の体験を例に

挙げ、時に笑いも交えながら、本来の使命よりも枝葉の部分に大切にするのではないようにと呼びかけた。講話の終わりに、「神は必要な時に、必要な人を、必要な所に派遣されます。私たちは福岡教区に派遣された者です」と参加者を鼓舞した。
ミサと総会の後、司教と担当司祭・古川健一神父と共に和やかな雰囲気の中で昼食による交流会が行われた。

菊池・山鹿教会 合同堅信式

4月24日、菊池・山鹿教会合同の堅信式が菊池教会で行われた。神はこの世界を創られ、その御心は聖霊を通して私たち人間の意志に影響を与える。毎日のちょっとした判断や選択のとき私たちに導いてくれる内なる声、気乗りせずがっかりしている時に私たちの中で燃える火が必要。この内なる声、内なる火が私たちに自由してくれる神の霊の働きではないでしょうか。菊池・山鹿教会では今回7人が堅信を受けました。菊池教会の小さな聖堂は大地震のあとにもかかわらず人々でいっぱい! 宮原良治司教の挨拶、香油に続き、最後は聖歌410番「喜び歌えアレルヤアレルヤ」の大合唱! 感謝のうちに祝会へ。手作りの美味しいフィリピン料理の味はまた格別だった。聖霊きてください!
(山鹿巡回教会 M)



山頭原太郎神父戦争体験を語る 「平和を求めるために戦争はあり得ない」



「戦争は絶対にいけない」と語る山頭師

4月17日、ピース9主催の山頭原太郎神父の戦争体験を聞く会が西新教会であった。今92歳の師は神学生の時召集され暗号兵として働かれた。以下は要約である。
戦争の終盤、門司港からフィリピンに移送されるため四千人の兵と共に乗船した。途中台湾に寄ったが米軍の爆撃で半数が亡くなった。自分も助かったが台湾で終戦を迎えた。これで殺したり殺されたりは無くなったと安堵した。戦死した友人に代わって主張する。平和を

求めるために戦争をすると言っているが馬鹿げた話だ。殺し合いで平和など求めることはできない。中国や北朝鮮が脅威だからと言うが、こちらが武器を持って問題が解決する。誰かに武器を持たせることは、相手を殺しに行くということだ。それで平和など絶対得られない。戦争当時は竹やりで相手の心臓を突く訓練をさせられ、軍隊では、気合入れと称して、互いの殴り合いもさせられた。戦争はおろかなことも平気でさせる。
戦争が終わると民主主義の何たるかも教えられぬまま、ただワーワー言っていて、これが民主主義教育のすべてだった。今の政治は殺し合いで平和を求めるなどと、何を言っているのかと思う。戦争は絶対やってはいけない。
約一時間の講話は感動的で遺言のようでもあり、心に深く刻まれた。
(報告 西新教会・澤田愛子)



☆幸せはあなた心が決める
渡辺和子著
思い通りに行かない時こそ自分らしさを輝かせる道がある。つらいこと、つまらないことを、価値あることに。生きる指針、人生のヒント。
P H P 研究所発行
税込み価格1080円

☆被災地から考える3・11とテレビ
坂田邦子、三村泰一編
あれから5年。メディアは、どれほどの情報を人々に発信していたのか、情報のキャッチボールを交感する姿を東北大学大学院の俊英たちが徹底検証。被災地の変遷を見つめる。
サンパウロ発行
税込み価格1944円

☆人生を変える出会いの力
間から光へ
五十嵐弘志著
前科3犯、延べ約20年間を刑務所の中で過ごしてきた著者が、さまざまな出会いをおして自分自身を見つめ直し、支援者や元受刑者の仲間と共に再犯のない社会の実現を目指して立ち上がる。回心と償い、再生と希望の物語!
ドン・ボスコ社発行
800円+税

人生を変える出会いの力
間から光へ
五十嵐弘志著
前科3犯、延べ約20年間を刑務所の中で過ごしてきた著者が、さまざまな出会いをおして自分自身を見つめ直し、支援者や元受刑者の仲間と共に再犯のない社会の実現を目指して立ち上がる。回心と償い、再生と希望の物語!
ドン・ボスコ社発行
800円+税

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 **森山工務店**
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM 10時~PM 5時40分
日・祝日/AM 11時~PM 4時(水曜日定休日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標

いつくしみ深く 御父のように

熊本地震被災地支援 チャリティーコンサート

祈りを歌に～被災された方々のために～ 日 時：6月25日(土)

11:30～ バザー・ミニ喫茶 13:00 コンサート開演

場所：カトリック大名町教会 2階大聖堂 主催：福岡教区災害支援室内福島家族支援実行委員会

筑後地区信徒研修会

日 時：6月26日(日) 14:00から テーマ：今村信徒発見 150周年 講師：古巣 馨 神父(長崎教区)

日本臨床パストラルケア研究会 in 長崎

日 時：6月25日(土)～26日(日) 9:30 受付開始、10:00 会員総会 テーマ：「いのち」

福岡教区広報室アドレス http://fukuoka.catholic.jp E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

6月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 6月

6日(月)～8日(水) 御受難会共同体的日(空室0) 11日(土)～12日(日) 月例黙想会(参加者募集中)

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

※祈りの集い 年間テーマ：イエスとの出会い その喜びを味わう 日 時：6月9日(木) 10時～15時

カテドラルでのゆるしの秘跡

日 時：6月4日、18日、7月2日、16日、30日 10時～11時45分 場所：カトリック大名町教会小聖堂

【6月】 1日(水) 聖ユスチノ殉教者 教会行政・法制委員会 2日(木) 常任司教委員会

福岡

◆聖霊による刷新福岡祈りの集い(日時)毎週月曜11時～12時半(場所)大名町教会1階(内容)賛美と感謝の祈り

自由席

◆原稿は4000字以内 ◆投稿先：福岡カトリック司教館 教区報係り宛 FAX092・523・2152

司祭人事異動

6月1日付 ◆下町豊重師(佐賀教区) 天使幼稚園(大牟田)園長着任

編集後記

晴れる朝霧の向こうに日の光が差し込み、見事な景観を映し出す。その中を通り抜ける時の爽快感。「ゆるしの秘跡」を味わう感じがする。

メモリーホール 人と人の絆を大切に、ご葬儀のご相談は 0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 内科・歯科臨床研修指定病院

痛みの相談室 いくま整骨院 平日：9:30～12:00 14:30～20:00

キリスト教書籍・用品 365日、24時間 いつでもどうぞ! http://www.paulus.jp